

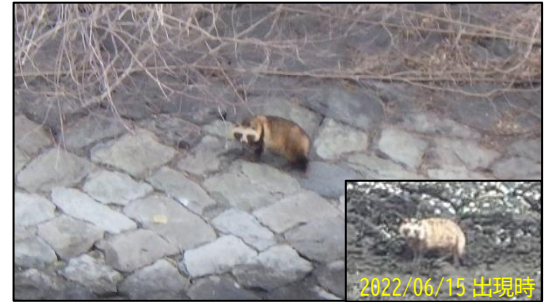
●実施状況

令和6年2月29日に稚魚調査を実施した。天気は晴のち曇りで、気温は8.8～11.4℃、調査地点の風向は北東、風速は0.5～2.0mであった。調査当日は中潮で、満潮は7時09分、干潮は13時28分であった(気象庁のデータ)。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

調査地点全てにおいてアユとスズキの稚魚が採集された。

【Topic】東京湾旧防波堤のタヌキ(続報)

お台場-葛西間の移動中、東京湾旧防波堤(江東区東雲運河)においてタヌキが出現した。本調査では令和4年6月に同地点で初めて確認され、以降も幾度か目撃されている。



	お台場海浜公園	葛西人工渚	城南大橋
作業時刻	8:44-10:00	10:38-12:05	12:37-14:05
水温(℃)	10.8	11.1	12.6
塩分(-)	31.4	31.2	24.6
透視度(cm)	>100	88.0	82.0
DO(mg/L)	8.2	8.1	8.2
DO飽和度(%)	90.2	89.3	89.4
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	8.0	7.9	7.6
水の臭気	無臭	無臭	微下水臭
備考			

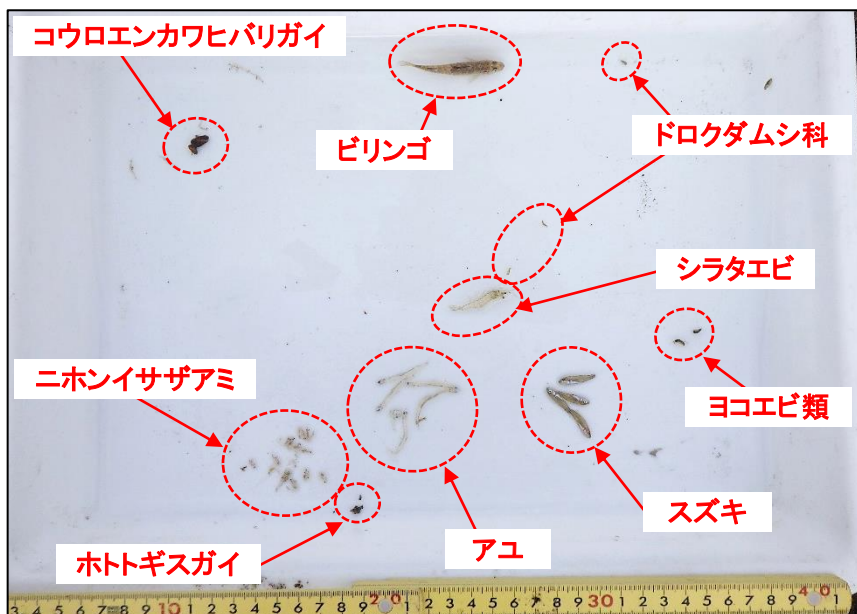
●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	葛西人工渚	城南大橋
魚種 (多い順 ^注)	アユ(+)	アユ(c)	アユ(c)
	スズキ(r)	ボラ(c)	ビリンゴ(+)
	ビリンゴ(r)	スズキ(+)	ボラ(r)
			ヒメハゼ(r)
			スズキ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	クロイサザアミ(G)	クロイサザアミ(m)
	ヨコエビ類(c)	ニホンイサザアミ(G)	ヨコエビ類(c)
	ドロクダムシ科(+)	エビジャコ属(+)	エビジャコ属(+)
備考	他にホトギスガイ、コウロエンカワヒバリガイ、シラタエビ等が採集された。	他にワレカラの仲間、クーマの仲間、シラタエビ等が採集された。	他にアシシロハゼ、ニホンイサザアミ、イソガニ属、コウロエンカワヒバリガイ等が採集された。

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

アユ

夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10 日～2 週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で 3～4cm になるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。

スズキ

湾奥から外湾にかけて様々な場所で見られる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。産卵期は早春。婚姻色はメスに顕著で、尾びれ以外のひれが黒く染まる。

ドロクダムシ科

体長 7mm 程になるヨコエビの仲間。腕のように見える大きな第二触覚が特徴。泥等で管を作り、そこに棲む。内湾等に多く出現する。

シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

ホトギスガイ

砂泥底に生息するムラサキイガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

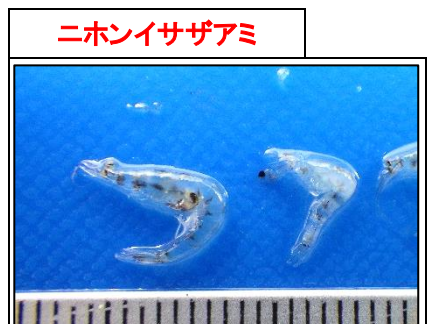
●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm



東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。スズキと同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。



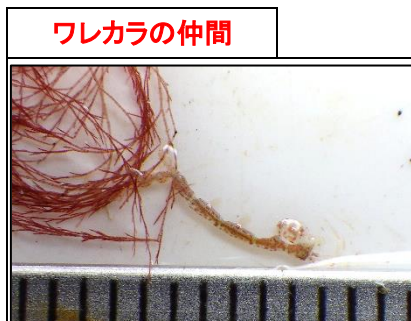
汽水域に生息するアミの仲間。体長 15mm 程になる。腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。通常はニホンイサザアミの中に少数混じることが多いが、今回本地点ではクロイサザアミが 6 割程度を占めた。



クロイサザアミ同様、汽水域に生息する。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。



稚魚等を捕食する小型の甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

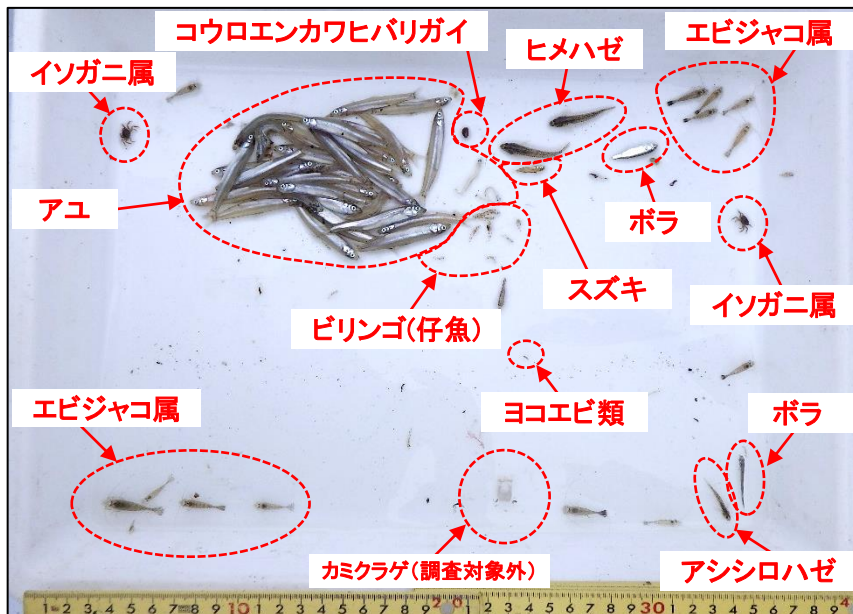


ヨコエビと近縁の小型の甲殻類(端脚類)。海藻やアマモ等にくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。



長い尾節が特徴の小型甲殻類で、体長は 7mm 程。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

アユ

※解説はお台場海浜公園を参照。
本地点では仔魚の他、5 cmを超える大きさの個体も採集された。

ビリンゴ

※解説はお台場海浜公園を参照。
本地点では体長 1.5cm 前後の仔魚が採集された。

ヒメハゼ(上) アシシロハゼ(下)

内湾の砂底や砂泥底に生息する。両種とも体側にゴマ模様があり、よく似るが、ヒメハゼは下顎が上顎より突出していることと頭部背面に黒点が一つあること(画像赤丸)、アシシロハゼは鱗がやや粗いことがその特徴となっている。

スズキ

※解説はお台場海浜公園を参照。

イソガニ属

潮間帯の岩礁や転石帯に多く、テトラポッド等人工的な環境にもみられる。雑食性。

コウロエンカワヒバリガイ

1970 年代後半に国内で発見された外来種。東京湾では代表的な付着生物となっている。水質汚濁や塩分の変化に強く、港湾の防波堤や転石等に高密度に付着する。